

新県立博物館(仮称) 詳細設計〔展示〕中間報告3

平成22年 2月16日

目次

展示 1.	基本的な考え方—ともに考え、活動し、成長する博物館—	1
展示 2.	交流創造エリアと展示エリアの機能連動の考え方	2
展示 3.	交流創造エリアの構成	3
展示 4.	学習交流スペースの配置およびコーナーイメージ	4
展示 5.	こども体験展示室の考え方	5
展示 6.	こども体験展示室のコーナーイメージ	6
展示 7.	三重の実物図鑑ルームの考え方	7
展示 8.	三重の実物図鑑ルームのコーナーイメージ	8
展示 9.	資料閲覧室の活用イメージと構成	9
展示10.	公文書館機能の概要(参考)	10
展示11.	展示エリアの構成	11
展示12.	基本展示室の考え方	12
展示13.	基本展示室 展示構成概念図	13
展示14.	基本展示室のイメージと展示表現の考え方	14
展示15.	テーマ展示室の考え方	15
展示16.	テーマ展示室のテーマ例	16

県民・利用者みなさんとともに、「三重が持つ『多様性の力』」を探求し、新たな知を創造・発信する博物館

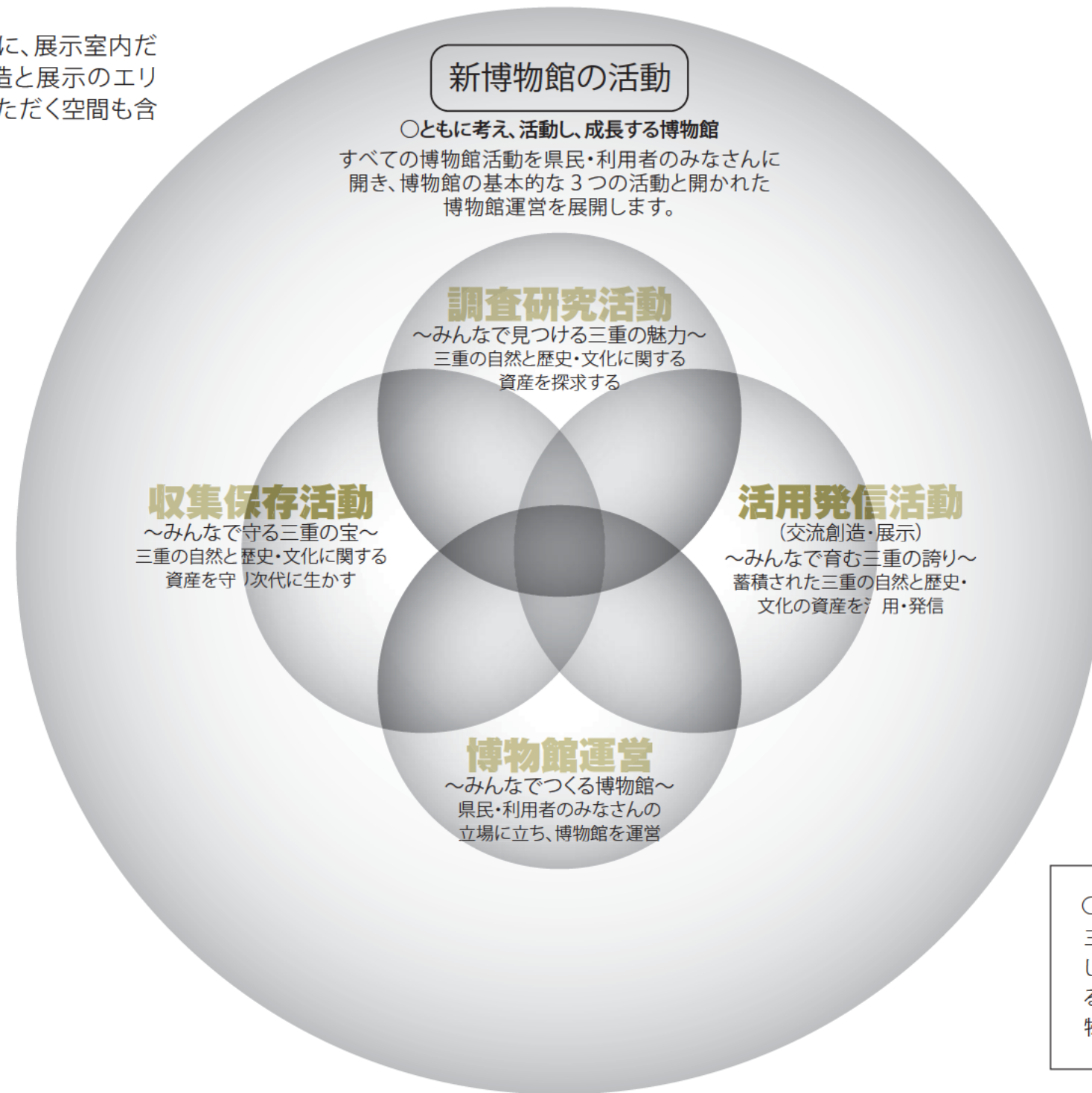
新博物館では、すべての博物館活動を県民・利用者みなさんへ開き、ともに三重の特色である多様で豊かな自然と歴史・文化を探求し、守り伝え、そして生かし、力にしていけるための活動を展開し、未来につながる新たな知を創造・発信します。

このような活動が積極的に展開できるようにするために、展示室内だけでなく、博物館の活用発信活動を展開する交流創造と展示のエリア、さらにエントランスエリアなどみなさんに利用いただく空間も含めた範囲を対象にして設計を行います。

○三重が持つ『多様性の力』

三重の特色は、日本の縮図ともいわれる多様で豊かな自然と、東西文化の結節点としての盛んな交流により生みだされた多様な歴史・文化をもつことにあります。

新博物館では、このような三重の特色である「多様性」を県民・利用者みなさんとともに探求し、「多様な資産」を保存継承することにより、地域への愛着と誇りを育み、地域に活力をもたらし、新たな文化を創造する力、今をつくり、未来を切り拓く力を生みだしていきます。



○公文書館機能の一体化

三重の今を未来に引き継ぐ県民共有の知的な財産として、県の歴史的公文書を一体的に収集し、活用できるようにします。このことで、資料活用の幅を広げ、博物館活動を充実させます。

「三重が持つ『多様性の力』」を創造する交流創造エリアと、発信する展示エリアが融合することで、新しい活動を生み出す

新博物館の特色として新たに設ける交流創造エリアと展示エリアを融合。だれもが、展示を見るだけでなく、博物館に蓄積された三重の自然と歴史・文化に関する資料や情報を幅広く活用し、活発に活動・交流できるようにすることにより、新たな知の創造・発信を生み出す場とします。さらに、館内のエントランスエリア、館外のミュージアムフィールドで展開する野外展示、県内各地で繰り広げるアウトリーチ活動(移動展示・フィールドワーク等)などとも連動させることにより、活動の場を広げます。

交流創造エリア

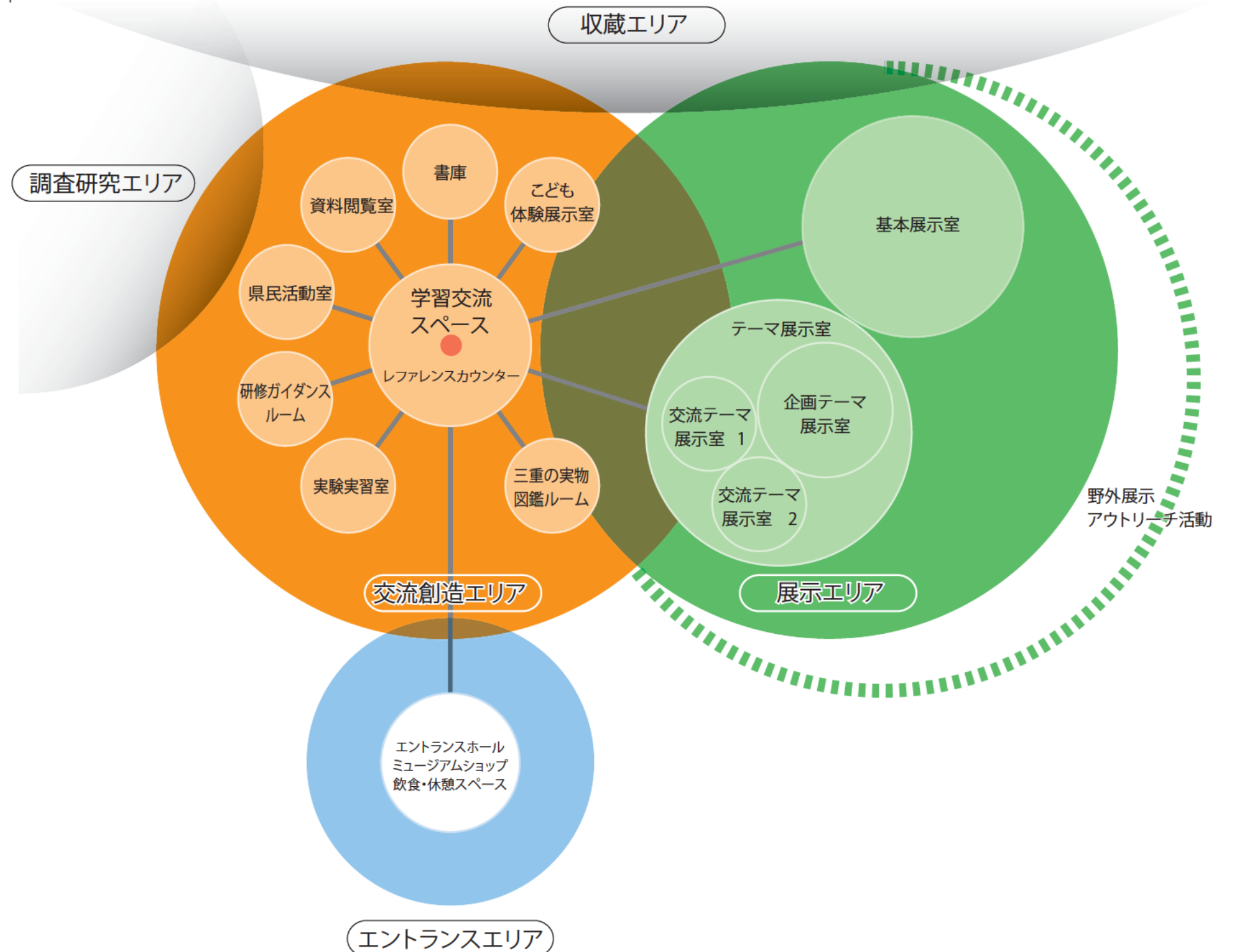
だれもが三重の自然と歴史・文化に関する資料、情報を活用し、主体的に活動・交流できる空間。

さまざまな博物館活動への入り口となって、交流創造の活動の輪を広げるための中核的な役割を果たします。これにより、県民・利用者と館、県民・利用者相互の対話や交流が活発に展開されることで、地域への愛着と誇りを育み、新たな創造と発信につなげる場とします。また、好奇心いっぱいの子どもたちが集う場とします。

展示エリア

基本展示室とテーマ展示室を複合的に展開させ、多様な三重の自然と歴史・文化の魅力を伝え、未来へとつなげる展示。

三重の多様で豊かな自然と歴史・文化の魅力を紹介する「基本展示室」と、複数のテーマによる大小さまざまな企画展示の組み合わせで展開する「テーマ展示室」とを複合的に展開連動させ、三重の特色である「多様性」を探求し、県内外に発信します。



展示3. 交流創造エリアの構成

多彩な活動と交流が生まれる博物館の中核となる交流創造エリア

県民・利用者のみなさんによる博物館活用の基点となる学習交流スペースを中心とした諸室の機能連携により、三重の自然と歴史・文化に関する県民・利用者のみなさんの多様な興味や関心、目的に応えるとともに、活動と交流の輪を館内外に広げていきます。

研修・ガイダンスルーム

講座や研修会、団体・学校向けのガイダンス(説明・案内)を行うための部屋

こども体験展示室

博物館の楽しさを知ることができる体験型の展示により、子どもたちに博物館を好きになってもらうための部屋 (P.5)

実験実習室

さまざまなワークショップや実験・実習型の講座を開催するための部屋

三重の実物図鑑ルーム

三重の自然と歴史・文化に関する基本的な資料を実物図鑑的に展示する部屋 (P.7)

学習交流スペース

交流創造エリアの中心的な役割を果たすスペース
交流創造エリアの他の諸室や展示エリアとも機能連携しながら、三重の自然と歴史・文化に関する興味や関心、目的に応じた県民・利用者のみなさんの学習や研究、グループ・団体等の活動と交流が行われる場所 (P.4)

レファレンスカウンター

学習交流スペースの窓口として、三重の自然と歴史・文化、県の歴史的公文書、県内外の博物館・公文書館に関する問い合わせや相談など、県民・利用者のみなさんの活動や交流をサポートする窓口

書庫

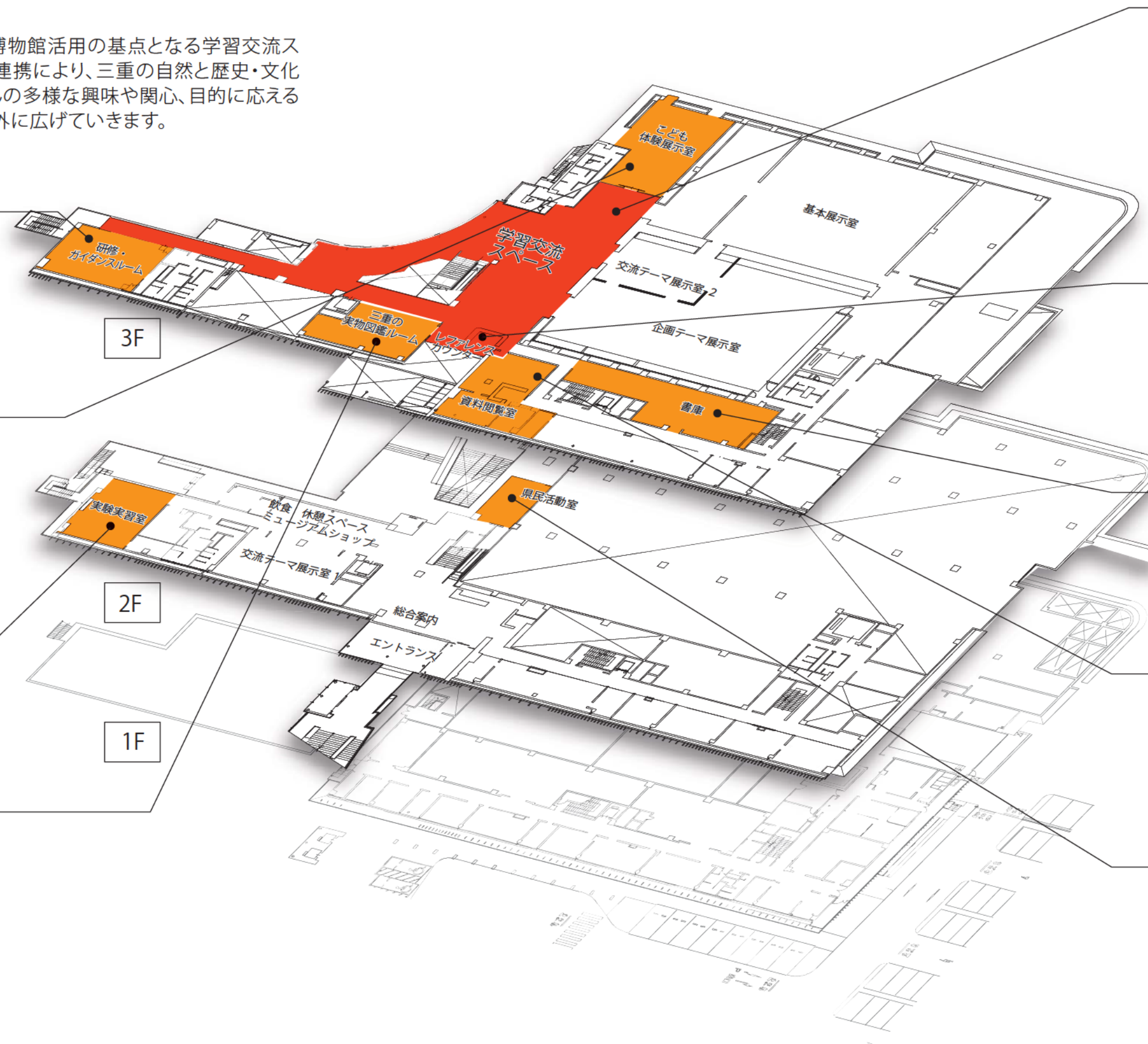
県民・利用者のみなさんが閲覧利用できる約8万冊の書籍(三重の自然と歴史・文化および県内外の博物館・公文書館に関する書籍類)を収蔵する部屋

資料閲覧室

新博物館に収蔵される三重の自然と歴史・文化に関する資料(県の歴史的公文書も含む)を閲覧できる部屋 (P.9)

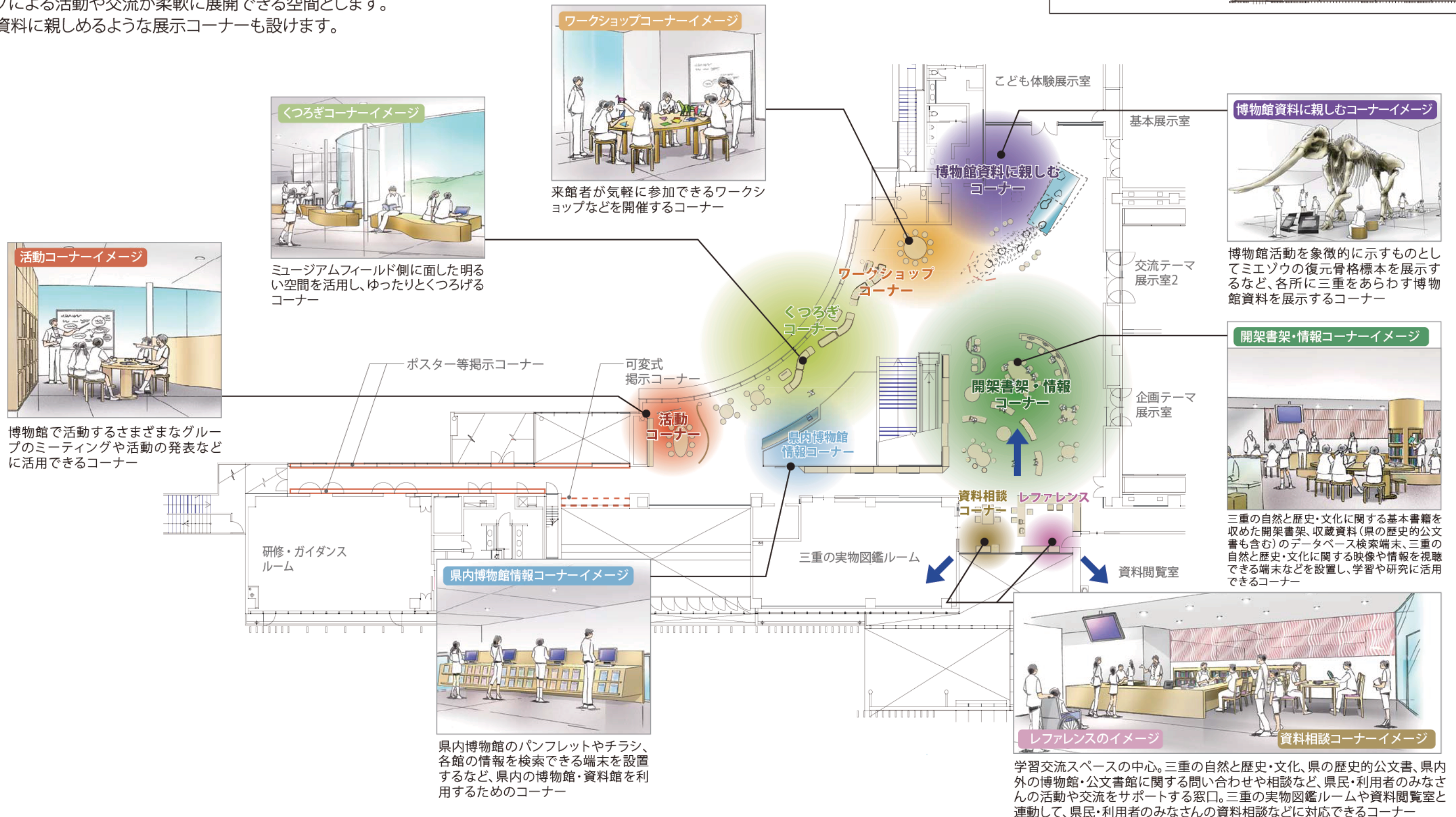
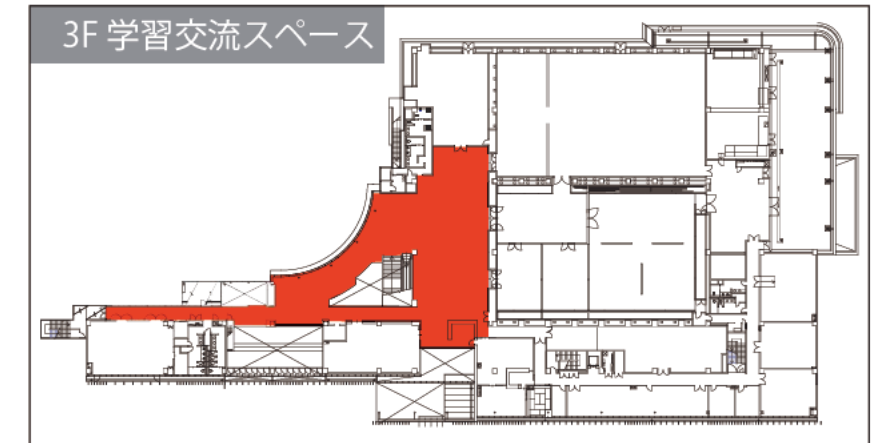
県民活動室

博物館で活動・交流する県民・利用者のみなさん、グループ・団体等が活用できる部屋



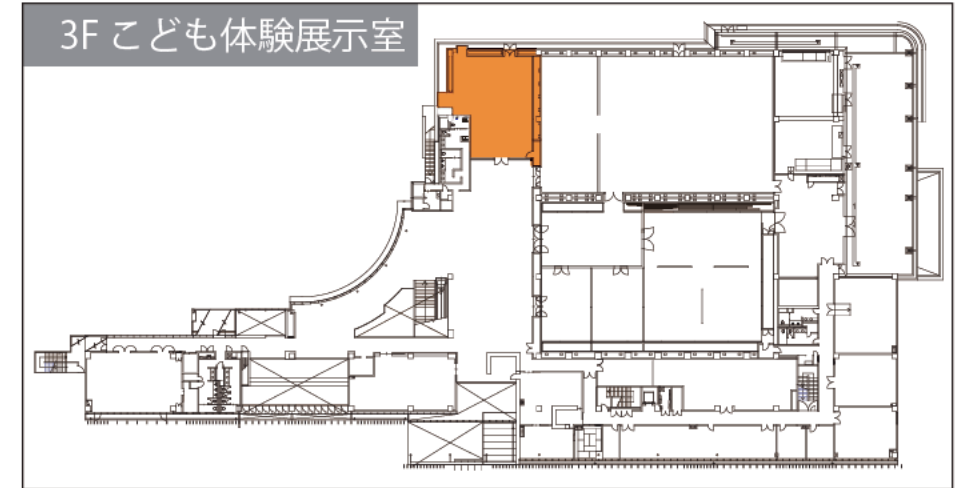
学習や研究、グループ・団体等の多様な活動と交流が展開する空間

ミュージアムフィールド側に開かれた明るい空間とします。
 交流創造エリアの他の諸室を結ぶ中心的な役割を果たし、展示エリアとも連動させます。目的に応じたコーナーが有機的につながる配置とします。
 三重の自然と歴史・文化等に関する問い合わせや相談、情報や書籍の閲覧、個人やグループによる活動や交流が柔軟に展開できる空間とします。
 博物館資料に親しめるような展示コーナーも設けます。



子どもたちが博物館を好きになるきっかけとなる展示室

ミュージアムフィールドが望める展示室。天井高を生かし、開放的な空間とします。訪れた子どもたちが「遊ぶ・楽しむ」を通して、博物館の楽しさを知ることができる展示内容とします。



■展示の構成

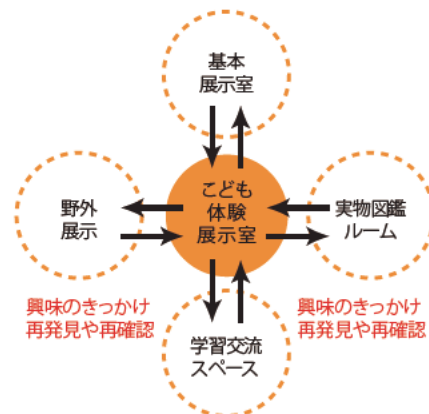
「モノをみる」ことから「モノの魅力」を感じてもらおうきっかけや興味を抱く展示をめざす。

ゾーン	やってみる(体験)			しらべる(調査)				のこす(保存)	つたえる(展示)
	遊ぶ・楽しむを通して博物館資料への興味や不思議を体験できるコーナー			興味や不思議を理解や探求心につなげるコーナー				体験を記録したり保存の方法を体験するコーナー	体験の成果を展示したり発表できるコーナー
コーナー例	ふしぎ?のもり 天井高や学習交流スペースからの見えを考慮し、高さを生かした展示を検討する。 	だれの足跡? だれのうんち 	くらべっこうおーる 	「大きな虫めがね」と「小さな虫めがね」 	なりきりファッションショー 	ナニコレ?ぼっくす 	ワークテーブル 	のこす、きろくする 	こどもアートギャラリー

■展示の特徴

他の諸室との連動の検討

こども体験展示室での興味がきっかけとなり、基本展示室や野外展示などへ展開するような展示内容を検討する。



五感に訴える展示手法

感覚に訴えるような展示手法で「モノ」への興味を呼びおこす。



未就学児も安全に体験できるゾーニング

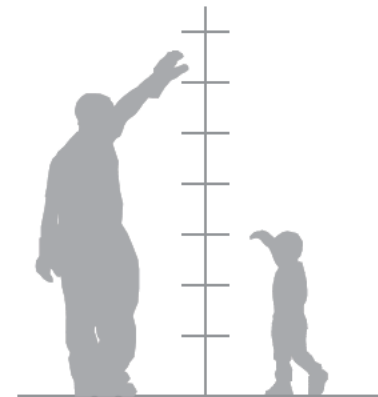


未就学児も安全に体験できるように、未就学児ゾーンと就学児ゾーンを設ける。

- 展示構成例
- 草むらの音: 虫の音や風の音などが聞こえてくる演出。
 - 立体パズル: 大きなパズルで座ったり遊んだりできる。

子ども目線から発想する空間設計

子どもたちならではのサイズや好奇心をくすぐるような展示を検討する。



スタッフの配置



スタッフを配置し、子どもたちの自発的な活動をサポートする。

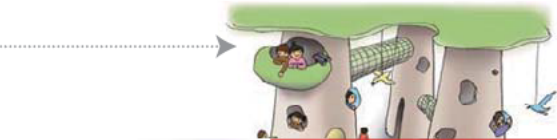
展示6. こども体験展示室のコーナーイメージ

やってみる (体験)

遊ぶ・楽しむを通して博物館資料への興味や不思議を体験できるコーナーイメージ

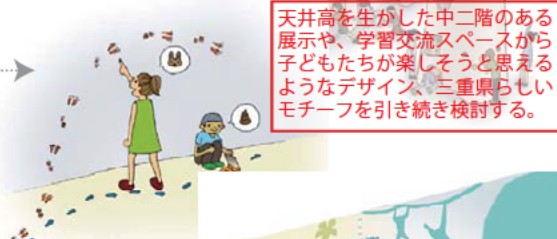
ふしぎ?のもり

花・木・葉など様々な生き物の匂いの実を嗅いだり、中二階からミエゾウを見ることができる。



だれの足跡?だれのうんち?

動物や昆虫など生き物のうんちや足跡などの痕跡を床や壁の一部も使って表現。何の生き物が間いかけるところどころ床がめくれたり、石をどけると下に何か隠れている。



くらべっこうおーる

いろんな生き物たちと背くらべ、体力比べ、能力比べができる壁面展示。意外な能力に秀でた隠れたチャンピオンたちについて学べる。



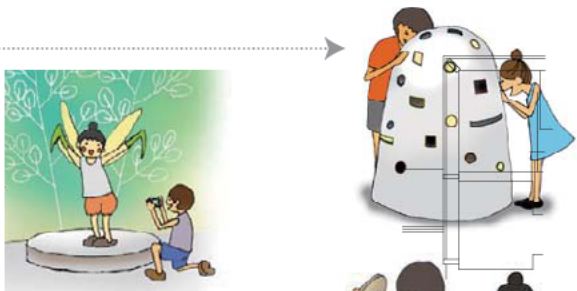
天井高を生かした中二階のある展示や、学習交流スペースから子どもたちが楽しそうと思えるようなデザイン、三重県らしいモチーフを引き続き検討する。

しらべる (調査)

興味や不思議を理解や探求心につなげるコーナーイメージ

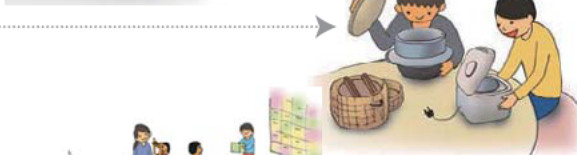
大きな虫めがねと小さな虫めがね

大きな虫眼鏡(ビューワー)で昆虫や花など、何でも大きくしたり、顕微鏡で鉱物や花粉などを観察する。



なりきりファッションショー

動物の歩き方をまねてみたり、生き物になりきって技を体験してみる。



ナニコレ?ぼっくす

動物や昆虫、植物などの自然史系、考古、歴史、民具等の人文系、さらに博物館の保存活動に関する展示内容が詰まったBOX。年齢や興味によって使い分けことができ、内容も随時更新可能。



ワークテーブル

ナニコレ?ぼっくすや簡単な体験ができるスペース展開。

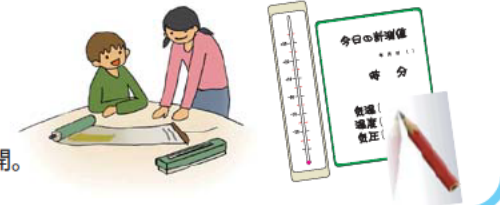


のこす (保存・記録)

体験を記録したり、保存の方法を体験するコーナーイメージ

のこす、きろくする

保存する方法や、記録する技を体験する。→それぞれのコーナーで展開。



つたえる (展示)

体験の成果を展示したり発表できるコーナーイメージ

こどもアートギャラリー

こども体験展示室内でつくった作品などを展示。



未就学児向けコーナー イメージ

未就学児も安全に体験できるように、未就学児ゾーンと就学児ゾーンを設ける。

草むらの音

草むらからいろんな音が聞こえてくる。昆虫の鳴き声、動物の鳴き声、風の音、川の音、波の音、磯笛、祭りの音、など。



立体パズル

やわらかい素材でできた大きな立体パズルで遊べるスペース。ソファのように腰掛けることもでき、保護者と一緒に絵本を読んだり遊んだりして、自由に過ごせる。



展示7. 三重の実物図鑑ルームの考え方

三重の自然と歴史・文化に関する基本的な資料を展示

学習交流スペースやレファレンスカウンターと連動させ、三重の自然と歴史・文化に関する身近な資料や特筆される資料を展示することで、県民・利用者みなさんが図鑑的に利用できたり、資料への親しみを深められる部屋とします。

■展示の構成

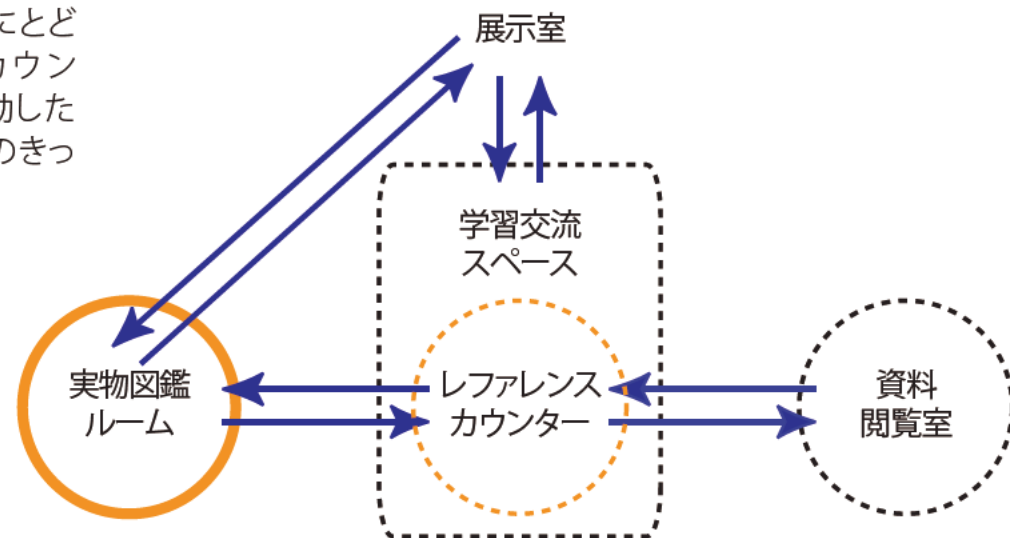
図鑑的な活用ができるように身近な資料を系統立てて展示する。

分類	岩石・鉱石・化石類	昆虫類	貝類・甲殻類 その他無脊椎動物	魚類・両生類・ 爬虫類	鳥類・哺乳類	植物・菌類	出土したモノ	受け継がれたモノ	継承されるワザ	愛用されたモノ	受け継いでいくキロク
例	 花崗岩	 ギフチョウ	 セキトリハッキガイ	 カワムツ	 キクガンシラコウモリ	 サカキ	 須恵器 器台	 東海道五十三次 庄野	 伊勢型紙	 ラジオ	 地租改正反対一揆 関係資料
	 黄銅鉱	 オオクワガタ	 アカテガニ	 カスミサンショウウオ	 カワセミ	 カバノリ	 押出仏	 北条義時書状	 古萬古	 手鏡	 県内物産博覧会資料
	 サメの歯 など	 オニヤンマ など	 クモヒトデ など	 ヤマカガシ など	 ニホンジカ など	 ハラタケ など	 古瀬戸壺 など	 和時計 など	 縞帳 など	 蓄音機 など	 伊勢宇治市街及近傍 など

■展示室の特徴

他の諸室や資料相談、閲覧との連動

実物図鑑ルームの見学にとどまらず、レファレンスカウンターでの資料相談に連動した利用や、資料閲覧・活用のきっかけとなる部屋とする。



博物館資料の保存と継承



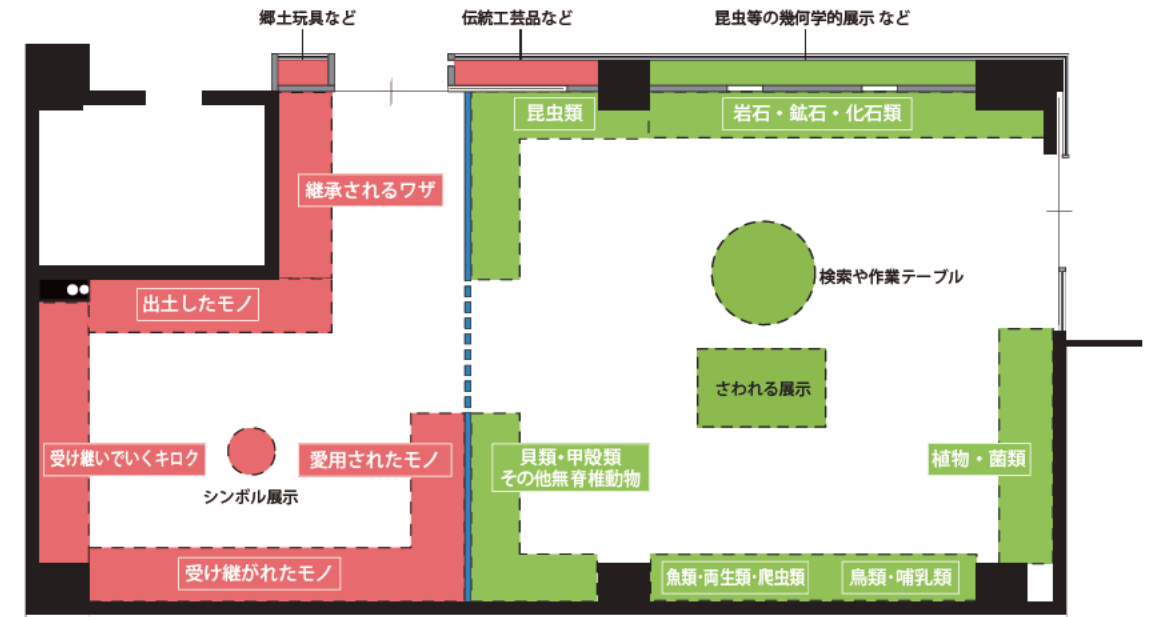
博物館の使命である「三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承し、次代へ生かす博物館」の一役を担う部屋として、博物館にはどのような資料が収蔵され、どのように保存されているかを紹介することで、県民・利用者みなさんとの協力による地域の貴重な資料の保存、継承の重要性を発信する。

展示8. 三重の実物図鑑ルームのコーナーイメージ

身近な三重の自然と歴史・文化に関する基本的な資料を美しく、図鑑的に展示

三重の歴史と文化に関する資料は、受け継がれてきた経緯とともに、資料の特徴を際立たせる美しい展示とします。資料保存の観点や季節・企画に応じた展示替えを行い、限られたスペースで多くの資料を紹介します。

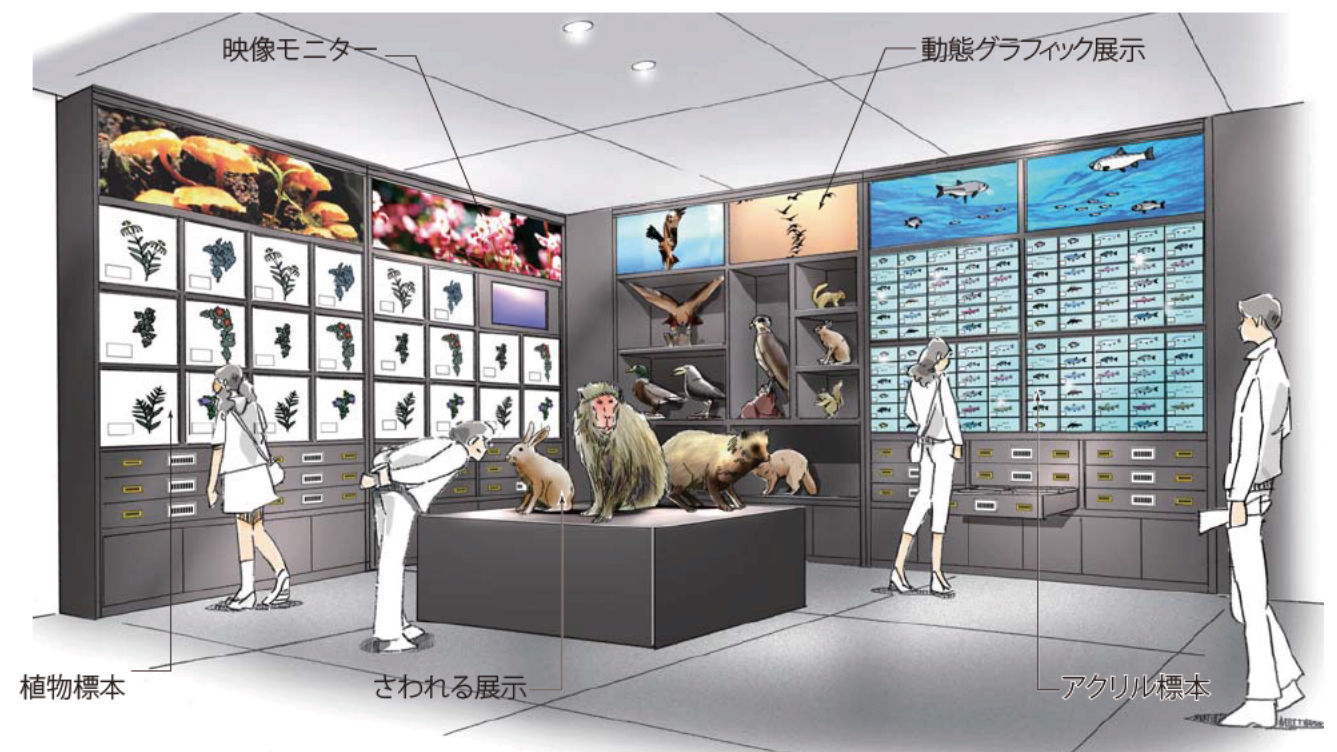
三重の自然に関する資料は、図鑑的分類による展示に加えて、映像やグラフィックなど、動植物の生態を伝える展示手法や、身近な自然の展示、さわれる展示など、資料に興味をもってもらえるような展示とします。



三重の歴史と文化に関する資料の展示イメージ



三重の自然に関する資料の展示イメージ



出土したモノ

出土した考古資料など



須恵器 器台 など

受け継がれたモノ

大切に保存されてきた美術工芸品など



和時計 など

継承されるワザ

伝え残すべき伝統工芸やその技など



縞帳 など

愛用されたモノ

日常的に使われてきた道具、民具など



蓄音機 など

受け継いでいくキロク

保存されてきた記録資料や新たに保存する歴史的公文書など



地租改正反対一揆関係資料 など

岩石・鉱石・化石類



花崗岩



サメの歯 など

昆虫類



ギフチョウ



オニヤンマ など

貝類・甲殻類・其他無脊椎動物



セキトリハッキガイ



クモヒトデ など

魚類・両生類・爬虫類



ドジョウ



アマガエル



ヤマカガシ など

鳥類・哺乳類



カワセミ



ニホンイタチ など

植物・菌類



サカキ



ハラタケ など

さわれる展示



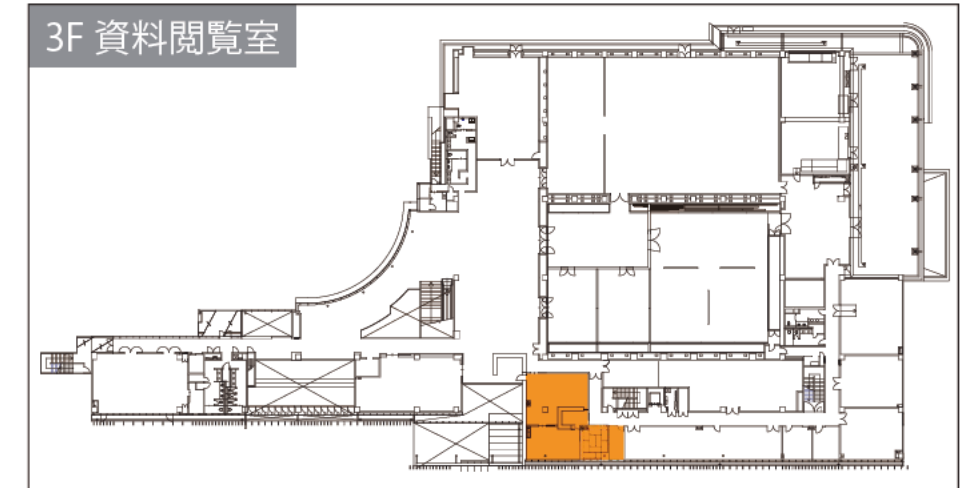
ニホンジカ



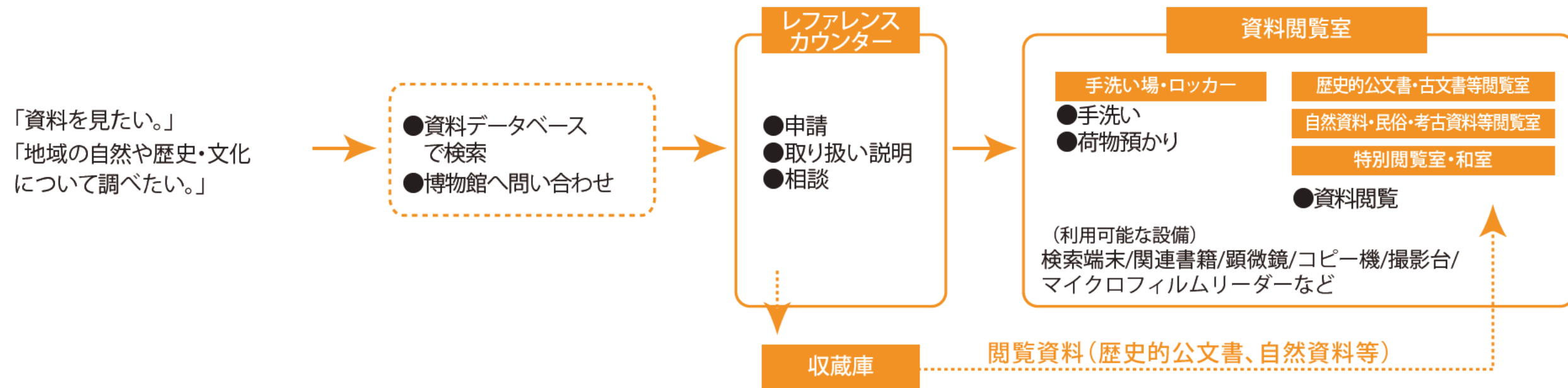
ニホンザル など

保存している自然・人文資料(歴史的公文書等を含む)などを閲覧できる博物館

博物館で所蔵する資料については、資料保存への配慮を前提とした所定の手続きを行うことにより、県民・利用者のみなさんが、閲覧、研究活動やさまざまな情報収集に利用することができます。資料への影響を考慮し、資料の種別や性格によって閲覧室を区分します。

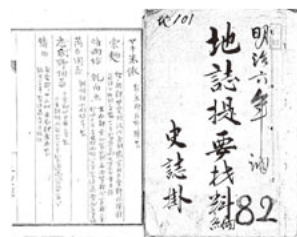


■資料閲覧活用のイメージ



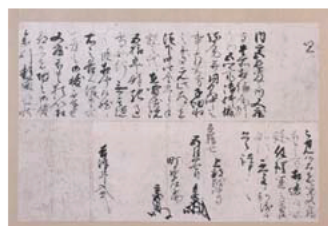
■資料閲覧室の構成

歴史的公文書・古文書等閲覧室



地誌提要材料編

三重県庁の歴史的公文書(選別公文書と明治期県庁文書・絵図など)、古文書や冊子・版本などの文献史料、版画や絵巻などの絵画資料など、主に紙媒体の資料を閲覧することができる。



伊藤又五郎家文書



熊野本地絵巻

自然資料・民俗・考古資料等閲覧室



ノコギリシダ



タガメ



須恵器 提瓶

化石・鉱物などの地学標本資料、動・植物の標本資料などの自然系資料、民俗・考古・陶磁器などの人文系の器物資料を閲覧できる。

特別閲覧室・和室



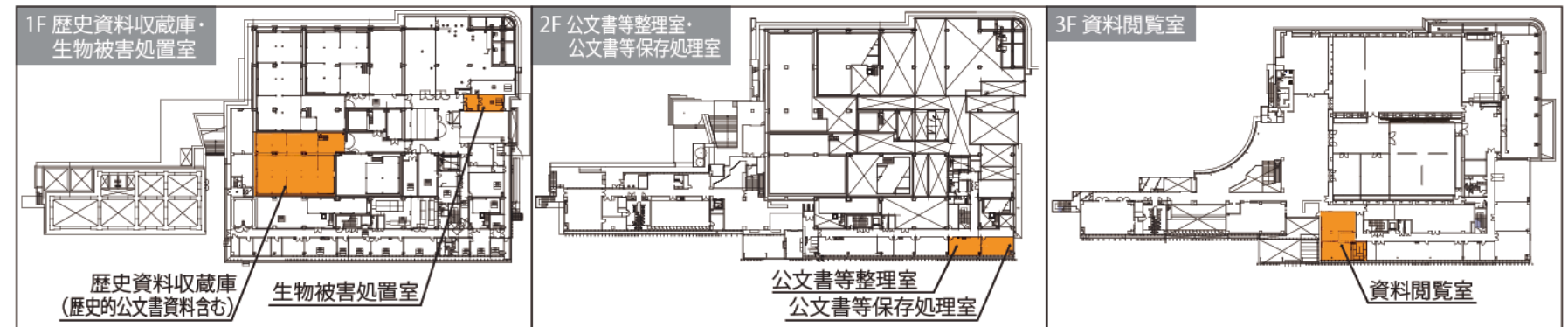
本居宣長像

軸物や屏風・大型絵図など、机上で扱うことが困難な資料、特別な配慮が必要な資料の閲覧、団体や行政機関等の特別な閲覧に使用する。

展示10. 公文書館機能の概要(参考)

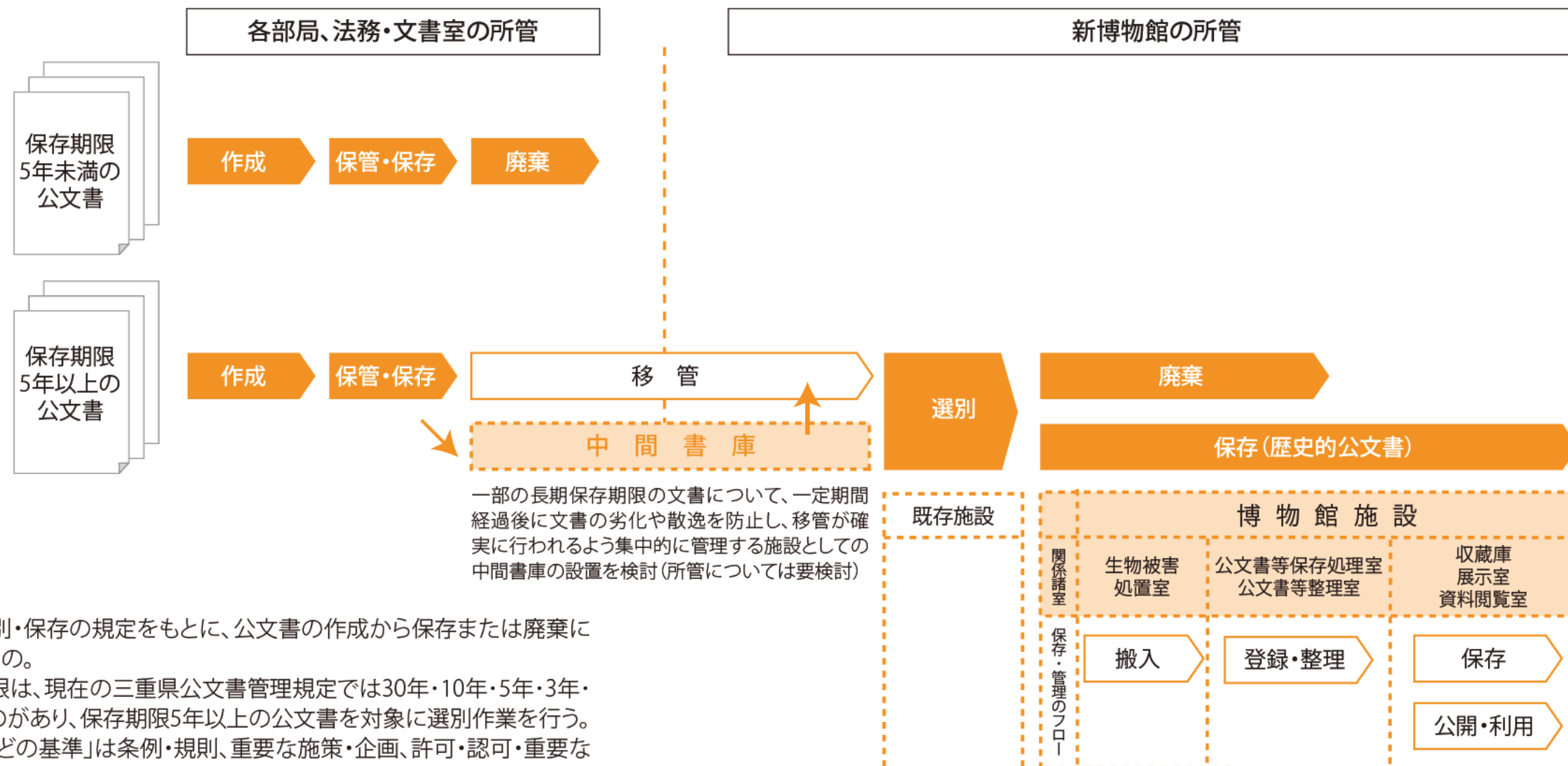
歴史資料として重要な公文書等を保存、閲覧、調査研究する 公文書館機能を一体化した博物館

公文書館法に基づき、歴史資料として重要な公文書等(「歴史的公文書」)を保存し、広く一般に公開する施設としての機能を持ち、併せて博物館の資料として活用することで、三重の文化振興に役立ち、より幅広い博物館活動を促進します。



<歴史的公文書の保存・公開の流れ>

保存対象資料を選別するための作業は、既存の施設(博物館外)を活用することとし、選別を終えて保存することが決まった歴史的公文書を博物館に搬入、1階の生物被害処置室で殺虫処理のあと、2階の公文書等保存処理室、公文書等整理室で整理作業等を行う。1階の収蔵庫(人文系資料・歴史資料収蔵庫等)で保存し、保存された歴史的公文書等は、3階の資料閲覧室で利用に供する。ただし、歴史的公文書は情報公開条例の対象外であり、閲覧・公開にあたっては、規定などの整備が必要となる。



※本図は現行の公文書選別・保存の規定をもとに、公文書の作成から保存または廃棄にいたる工程を想定したもの。
 ※歴史的公文書の保存期限は、現在の三重県公文書管理規定では30年・10年・5年・3年・1年および1年未満のものがあり、保存期限5年以上の公文書を対象に選別作業を行う。
 ※「選別保存する公文書などの基準」は条例・規則、重要な施策・企画、許可・認可・重要な契約、行政区画、重要な行事・災害など15の収集項目からなっている。

基本展示室と複数のテーマ展示室が連動して、さまざまな三重を発信する

基本展示室と可変的な複数のテーマ展示室で構成する展示エリアでは、三重の魅力を概観する基本展示室と、さまざまな企画展示を複合的に展開し、三重の多様で豊かな自然と歴史・文化を多角的に発信します。

テーマ展示室

展示の内容・規模に対応する3つの変型的で柔軟な利用ができる展示室によって、全国規模から小さな展覧会まで、また、館の自主企画から県民による展示まで、さまざまな展示を組み合わせ合わせて展開し、三重の魅力を多角的に伝えます。(P.15)

交流テーマ展示室 1

エントランスエリアに隣接する展示室。県民協創交流展などの多様な主体との交流展示や、ワークショップなど、柔軟に活用できる仕様。

交流テーマ展示室 2

交流テーマ展示室 1 と企画テーマ展示室の中間的な仕様設定の展示室。

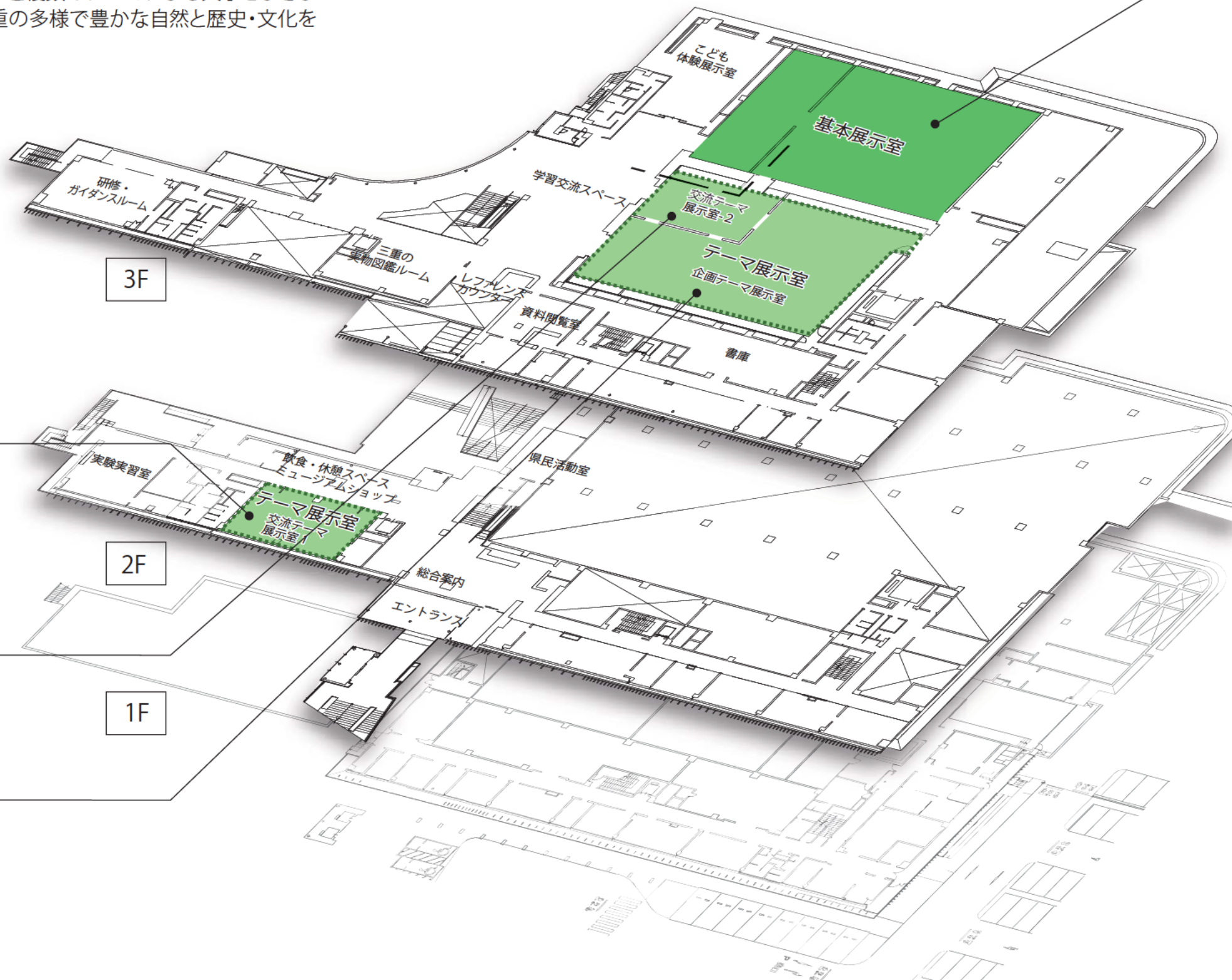
企画テーマ展示室

国宝・重要文化財などの指定文化財の展示にも対応できる展示室。可変型の区画により大小さまざまな規模・内容の展示が可能。

基本展示室

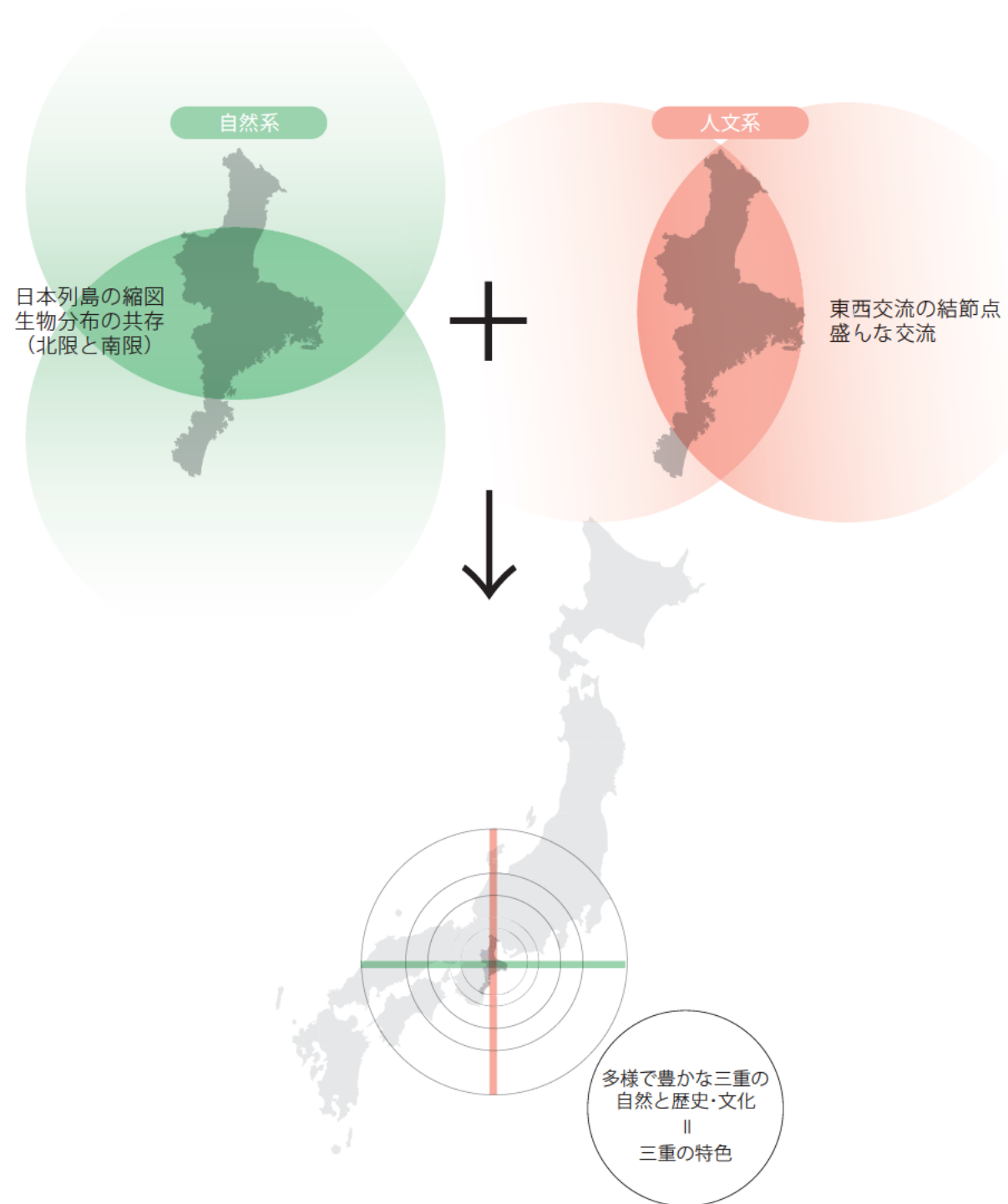
三重の多様で豊かな自然と歴史・文化を概観しつつ、「三重ってすごいところ!」と感じる魅力のポイントを紹介します。

(P.12)

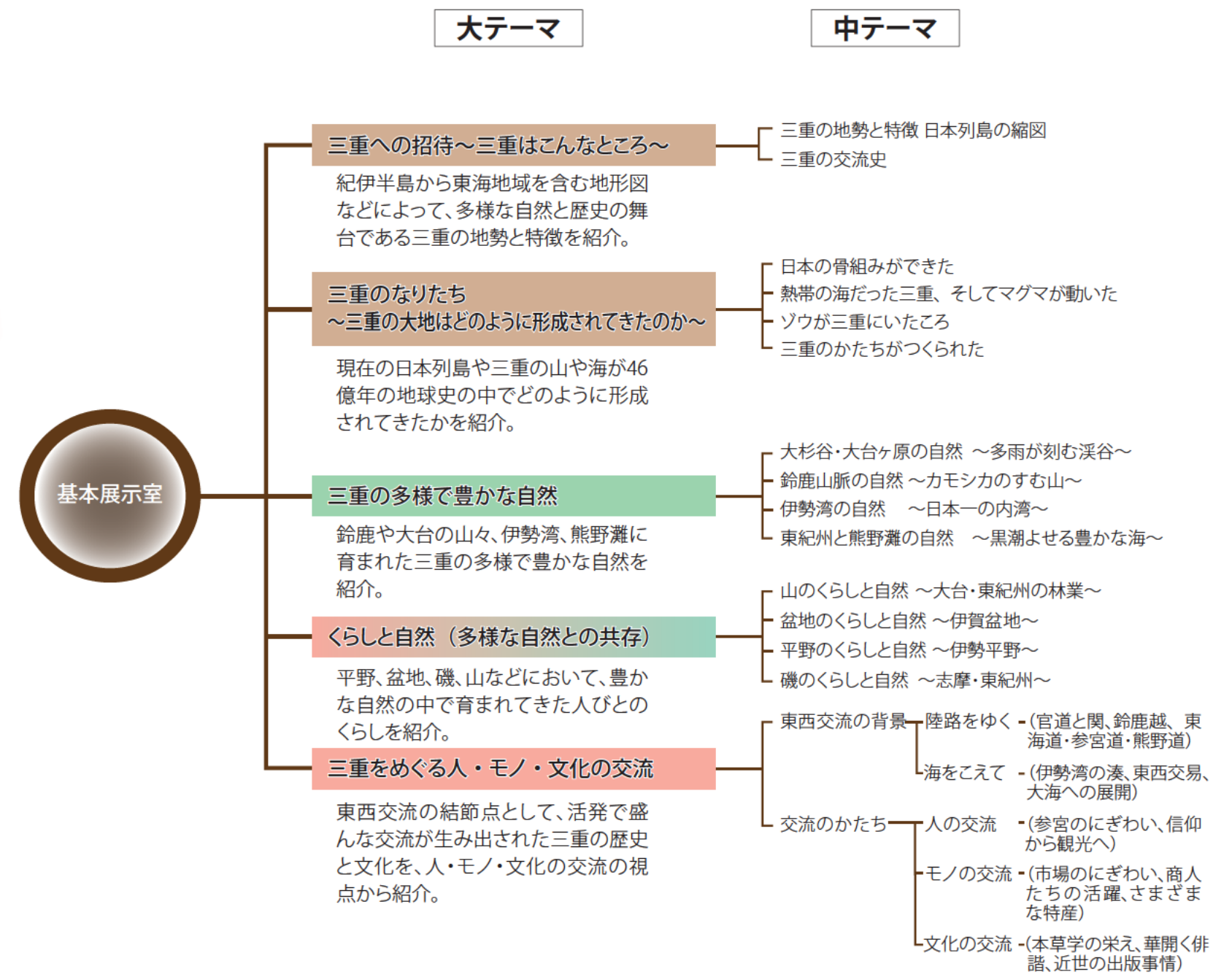


「三重ってすごいところ!」を発信

日本列島のほぼ中央に位置する三重は、南北に長く、-2,000mの深海から標高1,700mもの山岳を含んだ多様な自然環境に囲まれ、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物相を育むなど、まさに日本列島の縮図といえる多様で豊かな自然を有しています。その多様性に富んだ自然を背景にして、古くから交通の要衝の地として栄え、東西文化の結節点、海と山との文化の出会う場所であった三重は、活発な人やモノの交流によって、多様で豊かな歴史と文化を生み出してきました。こうした三重の特色である自然と歴史・文化の「多様性」の魅力を知りやすく紹介し、「三重ってすごいところ!」を県内外に発信します。

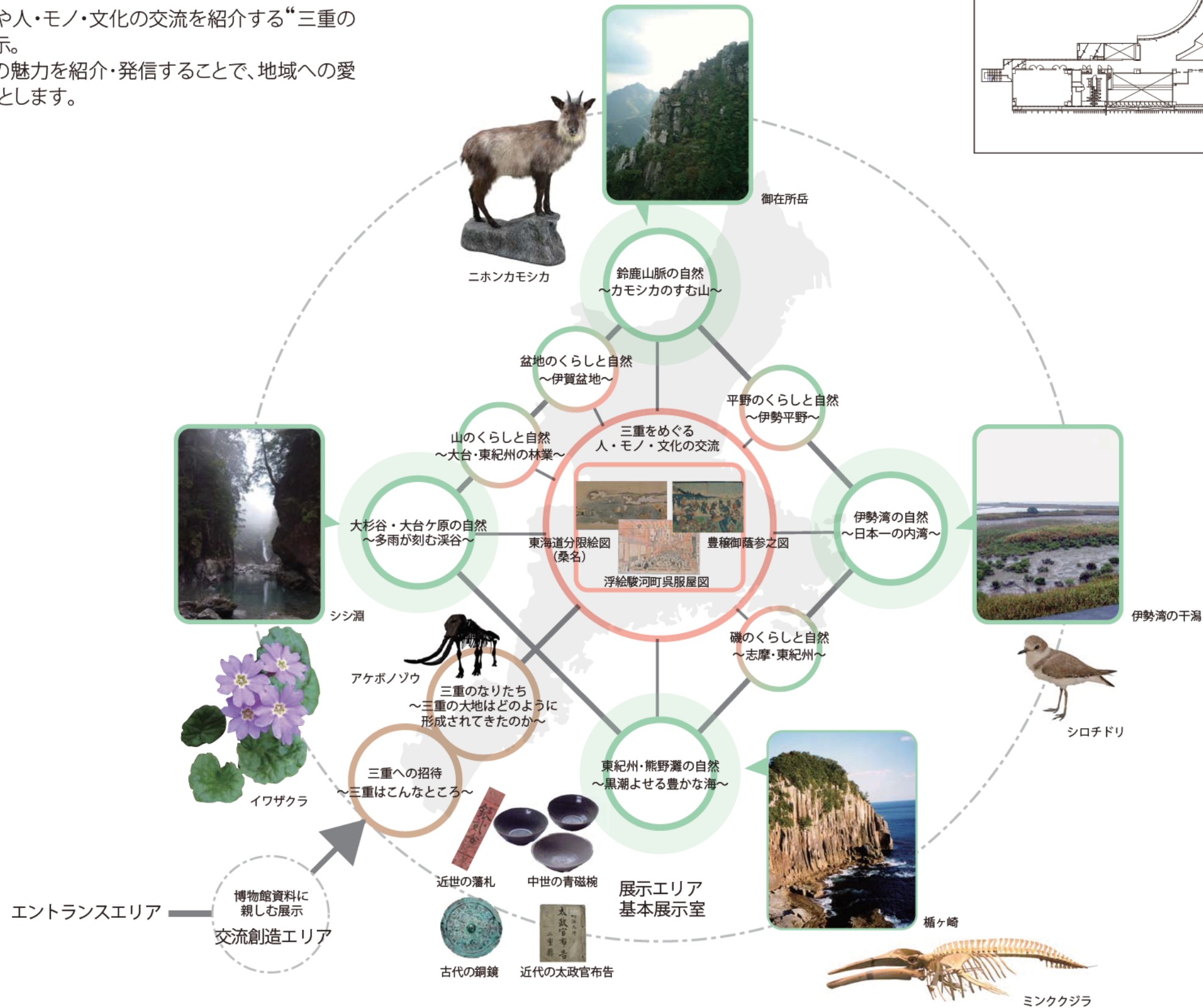
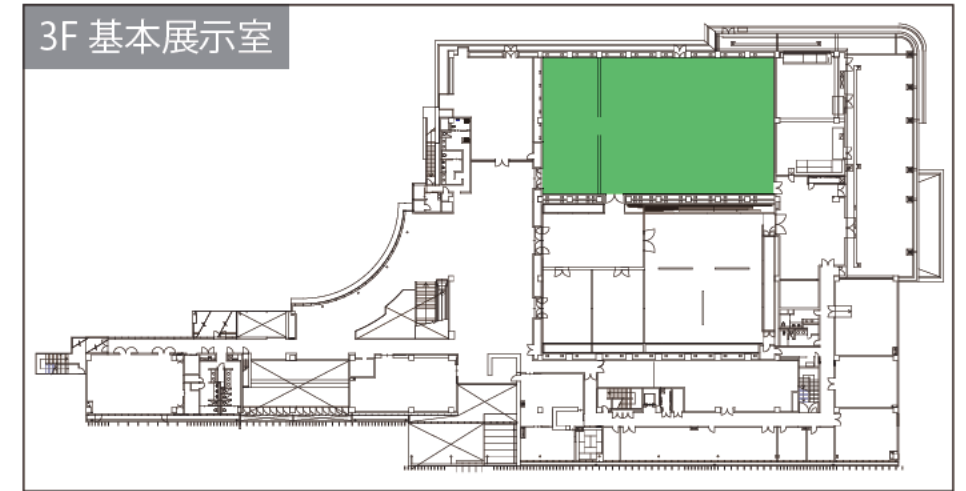


■展示テーマの構成



多様で豊かな三重の自然とくらし 人・モノ・文化の交流をめぐる 展示ストーリー

多様な三重の自然のすがたや人・モノ・文化の交流を紹介する“三重のミクロコスモス(小宇宙)”展示。
 三重の特色である「多様性」の魅力を紹介・発信することで、地域への愛着と誇りを育むきっかけの場とします。

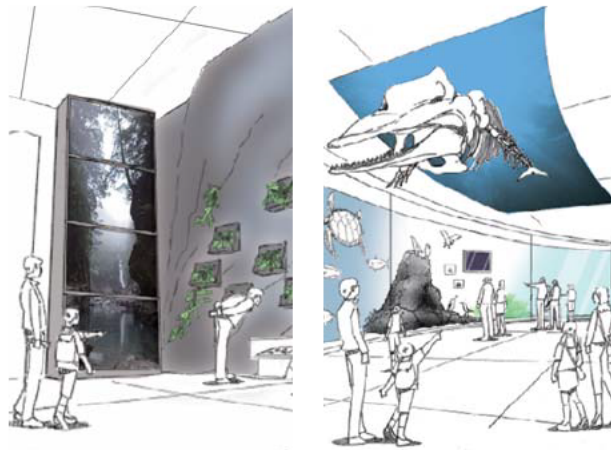


子どもから大人まで、興味から知る喜び、参加する楽しみにつながる展示

「きれいだね」「大きいね」といった驚きや感動など、体感的な展示を通して興味や関心を引き、「そういうことなんだ!」という納得や理解につなげます。さらには様々な活動と連携した内容の展示とすることで、館内での活動プログラムや地域での活動に参加するきっかけとなる展示とします。

感じる展示

多様で豊かな自然や多彩な交流を空間体験を通して、体感的に伝える展示。



「大杉谷・大台ヶ原の自然」のイメージ 「東紀州・熊野灘の自然」のイメージ

知る・つながる展示

ハンズオンなど身体感覚に訴える展示手法や、現在の私たちの身の回りとの比較を通して、より身近に感じてもらう展示。



「鈴鹿山脈北部の石灰岩地帯と洞穴」のイメージ

「伊勢参宮の人々をもてなした御師屋敷の復元模型」のイメージ



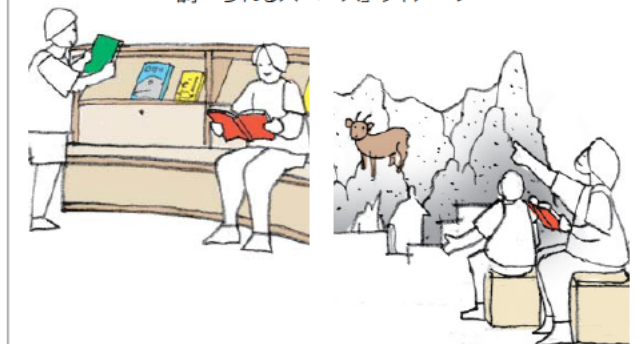
基本展示室の展示イメージ

調べる・参加する展示

展示室内に三重の自然と歴史・文化に関する情報・書籍コーナーを配置。県民から集まった最新の地域情報を調べたり、書籍を閲覧できる。展示に関するワークショップを実施し、地域とつながる。



「県民から集まった最新の地域情報が調べられるスペース」のイメージ



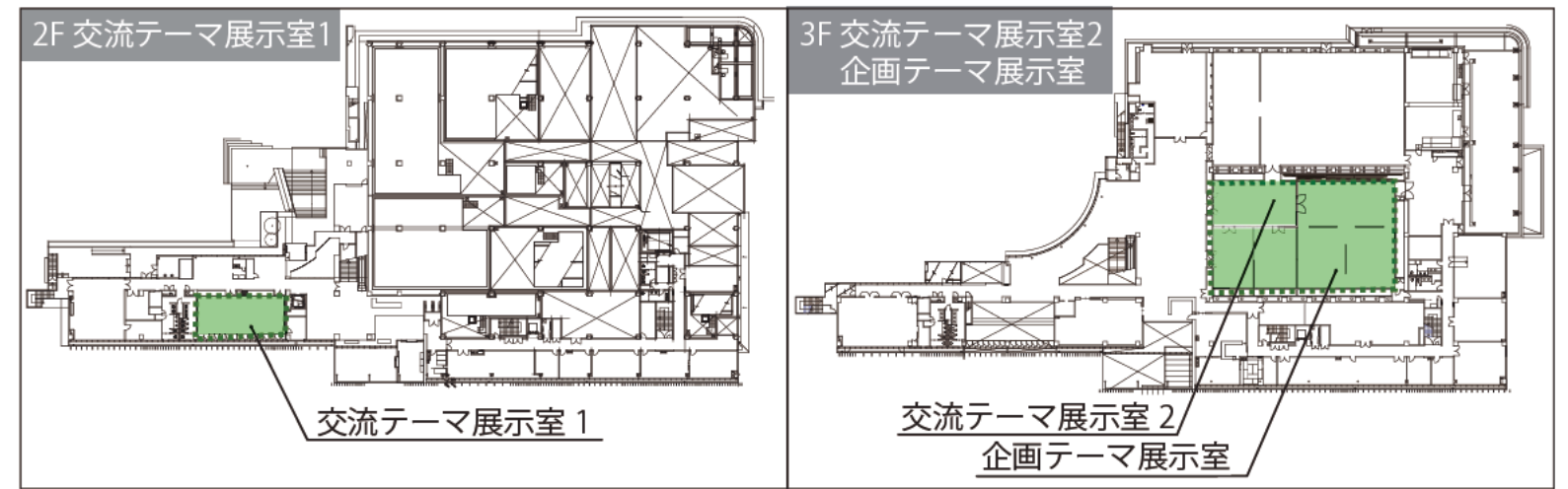
「各コーナーのテーマをより深く知るための書籍と閲覧スペース」のイメージ



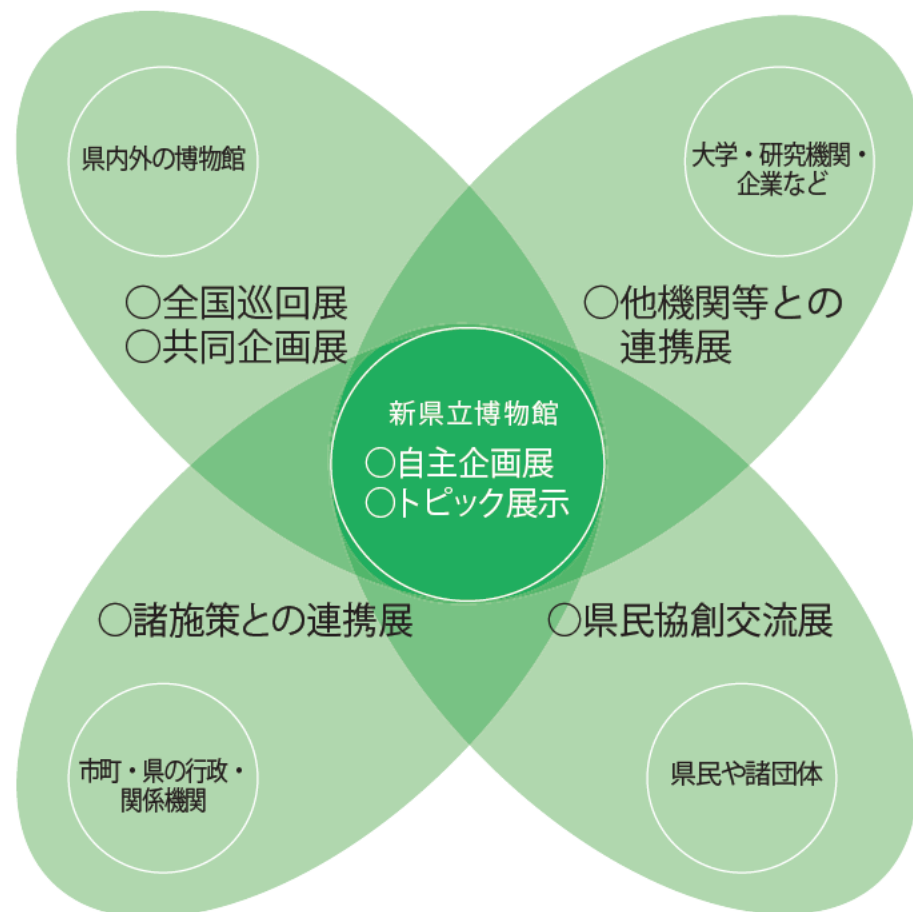
「基本展示室内でのワークショップ」のイメージ

様々な展示を可能にするフレキシブルな空間

基本展示室と連動させ、大規模な全国巡回展や自主企画展、県民との協創交流展などの組み合わせで、多様な三重の魅力を幅広く紹介します。各々の展示内容や規模に応じて、大小さまざまな展示空間をつくりだします。3種類の仕様を持つ展示室を効果的に組み合わせ、多様な展示活動を展開します。また、交流テーマ展示室では、展示だけでなく、ワークショップなどの多彩な催しの会場として使用するなど、柔軟な活用を可能とします。

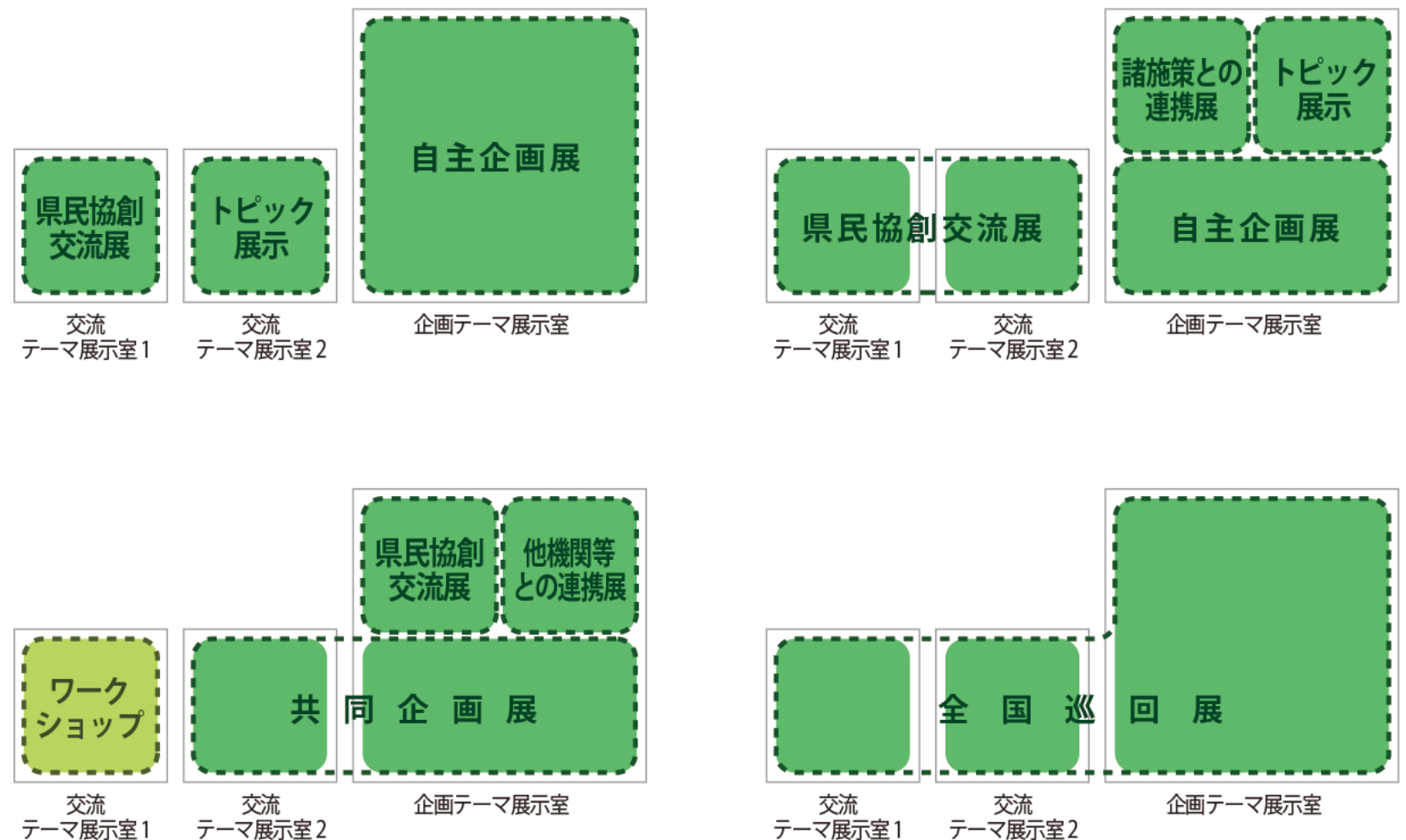


■さまざまな展示の展開例



■テーマ展示室の展示展開パターン例

■ 展示 ■ ワークショップなどその他の催し



多様な三重の魅力を多様に展開

自主企画展や、県内外の博物館との連携による巡回展・共同企画展、基本展示とつながったトピック展示、県民や諸団体、県の諸施策等との連携による交流展示など、さまざまな形態による展示を展開します。

企画展示(自主企画展・全国巡回展・共同企画展)



「美し国・三重の至宝」のイメージ

調査研究などの成果をベースに三重の自然と歴史・文化や、これにちなむ幅広い魅力を紹介する自主企画展や全国的な規模で行われる全国巡回展、共同企画展などを開催。

テーマ例

- 「美し国・三重の至宝」
三重の豊かな歴史・文化をあらゆる国宝・重要文化財などの至宝を一堂に集めて紹介
- 「古文書が語る地域の歴史」
古文書等の歴史資料によって地域の歴史を紹介
- 「日本で見つかった恐竜たち—大型恐竜のナゾをさぐる—」
全国の博物館との共催で、トバリュウをはじめ、国内で見つかった大型恐竜を紹介する巡回展を開催 など

交流展示(県民協創交流展・他機関等との連携展)



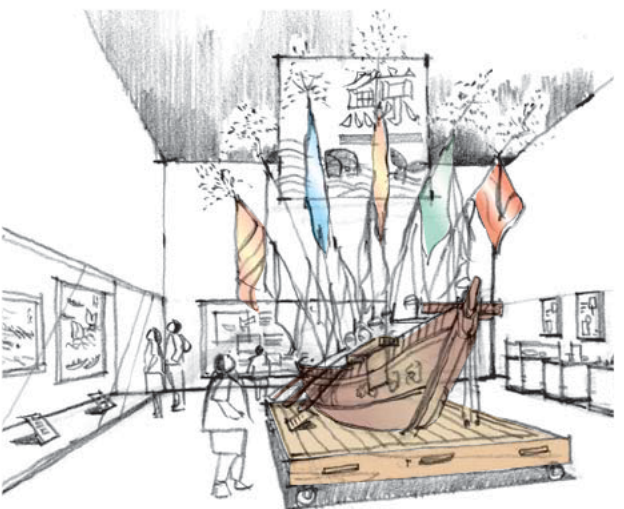
県民参加型調査展
「三重の里山を考える」のイメージ

県民や諸団体などとの協創による展示。県民協創交流展をはじめ、文化施設や大学、地場産業、企業などとの連携により実施。

テーマ例

- 県民参加型調査展「三重の里山を考える」
- 諸団体との協創による展示「自然文化祭」
- 「小さなチョウの大きな旅—日本を縦断するチョウたち—」
- 「地域に残る石仏たち—サポートスタッフとの協働調査から—」
- 「日本まんなか共和国共同展」など

トピック展示



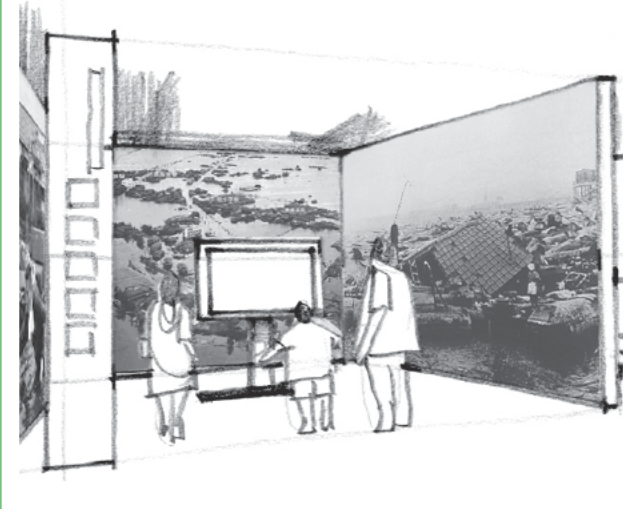
「クジラをめぐる人とまつり」のイメージ

基本展示と連動・補完する展示。随時展示替えを行うことで、常に新しい三重の魅力を発信、発見。

テーマ例

- 「クジラをめぐる人とまつり」
- 「物語のなかの生きものたち」
- 「ウシ・牛・丑年(干支シリーズ)」
- 「サクラとその名所」
- 「伊勢型紙のワザとデザイン」など

交流展示(県諸施策との連携展)



博物館の展示発信機能を生かした、県の諸施策などの発信。

テーマ例

- 「三重の防災—地震・台風を記録した歴史資料から学ぶ—」
- 「戦争の記憶—過去の経験から平和を考える—」
- 「三重の子育て100年—みんなで支える三重の子育て—」など